

橋本商会沿革

明治維新（1868年）

創業者橋本雄造は中津藩士として参勤交代の江戸詰め中に維新を迎え、商人を志して長崎へ下る。

橋本雄造は長崎の外国貿易商社で商売の修業をし、4年後には同商社の支配人となる。

明治5年（1872年）11月

橋本雄造は長崎市江戸町に金物商として中津屋橋本商店を創業し、洋鉄・洋釘・船具及び機械類の輸入、古鉄類の売買、船舶の解体等を行う。

明治政府の工部省所管の長崎溶鉄所(後の三菱重工業長崎造船所)に洋鉄、洋釘、洋鋏などの造船用資材を納入。

明治18年（1885年）

平戸港外で沈没したオランダ船を英国人トーマス・グラバー氏の指導のもとに、引揚げに成功する。（日本に於ける沈没船引揚げ第一号）

明治21年（1888年）

台風により五島黄島沖に沈没したフランス汽船スローエン号3,000トンの引揚げ成功によりサルベージ技術を確立する。

明治30年（1897年）

橋本辰二郎が二代目社長を継承する。

（橋本辰二郎は公職として長崎商工会議所会頭を20年、貴族院議員を約30年勤めた）

明治36年（1903年）

橋本辰二郎はイギリスグラスゴーで1875年に建造された旅客船Ringarooma号を買取り、「瓊浦丸」（げいほまる）と命名し、神戸の川崎汽船で改造後輸送船として利用を始める。

明治38年（1905年）

旅順港内で港湾閉塞のために自沈したロシアの艦船の過半数を軍命により引揚げる。

大正元年（1912年）

トロール漁船3隻により水産業にも進出。

大正3年（1914年）

第一次大戦勃発と同時に、神戸市明石町を本社とする福洋汽船株式会社を設立し、海運業に進出する。（大黒山丸9,000トン・大日山丸9,000トン・遠加丸10,000トン・茂木丸9,000トン）

大正7年（1918年）1月

佐世保商業銀行の設立に参画。

（昭和14年9月、佐世保商業銀行と佐世保銀行が合併し親和銀行となる）

大正10年（1921年）12月

橋本行正が3代目社長に就任する。組織改革を行い、橋本商店より株式会社橋本商会（資本金500,000円）とし、取扱品目を工業用資材・土建用資材等にひろげ、その販路も拡大する。

昭和13年（1938年）3月

橋本和太八（大正6年入社）は、中国南京に進出し、個人商店として橋本洋行（家庭用品）、雲仙堂（菓子店）、橋本茶舗、東京庵（食堂）の4店を開店し成功を収める。

昭和14年（1939年）11月

古鉄部門の業務拡張（朝鮮・台湾方面よりの屑鉄輸入等）にともない同部門を株式会社橋本商会から、別会社として分離独立させ、株式会社橋本商会古鉄部（資本金195,000円社長／橋本和太八）として発足させる。

昭和15年（1940年）

橋本商会古鉄部は中国南京市に約2千坪の土地を借り、事務所を建設し、南京橋本商会を設立した。古鉄の取扱量は一流鋼材問屋として南京で名声を得る。

昭和19年（1944年）5月

金属類の蒐集団体、長崎県金属非常回収工作隊のリーダーとして実績を挙げていた橋本和太八は、長崎県が組織した金属類決戦回収工作隊の隊長に任命される。

（昭和18年長崎県金属非常回収工作隊は、諏訪神社の青銅製の大鳥居を回収する）

昭和20年（1945年）1月

販売部門のほかに鉄材の鍛造機械部品の加工・製造部門として橋本商会鉄工部を新設する。

昭和20年（1945年）8月

終戦により南京における橋本商会の全財産は中国に没収される。

昭和21年（1946年）3月

終戦により株式会社橋本商会古鉄部は事業を再開。三菱製鋼株式会社の製鋼原料である屑鉄の一手納入者の指定を受け、戦後の国土復興に尽力する。

昭和24年（1949年）7月

橋本和太八は、公安委員に就任する。

昭和27年（1952年）3月

戦時中諏訪神社から回収した大鳥居を復元し、諏訪神社へ奉納する。
（奉納代表者橋本和太八他元回収工作隊班長6名）

昭和31年（1956年）11月

株式会社橋本商会古鉄部は鋼材及び新商品の成長につれて取扱品目が多角化したため、社名を橋本商事株式会社（資本金30,000,000円）に変更する。株式会社橋本商会も逐年発展して資本金6,000,000円となり営業活動は関西・関東に及ぶ。

昭和32年（1957年）10月

業容の競合回避と経営効率化のため、橋本商事株式会社が株式会社橋本商会を合併して、新生株式会社橋本商会（資本金36,000,000円4代目社長／橋本和太八）となる。

昭和33年（1958年）

鋼材需要の増加に対応するため茂里町現場事務所に浦上営業所を開設し、内部体制を整備する。

昭和35年（1960年）

三菱電機株式会社の長崎地区機器代理店となり、鋼材販売等ローマテリアル商材から産業機器販売の転換となる。この頃ナショナル溶接機の販売も開始する。

昭和41年（1966年）8月

長崎市の繁華街、油屋町に地上5階地下1階の総合ビルを建設、傍系である橋本ビル株式会社として、貸室業及び不動産業の経営に進出する。

昭和43年（1968年）7月

橋本抜鉄工業株式会社より、長崎市大橋町、西北町、梁川町の同社不動産及び償却資産を

買い受け、その業務の一部を継承する。

昭和48年（1973年）11月

創業100周年記念式典を挙げる。（万才町グランドホテル）

昭和49年（1974年）12月

北九州市小倉北区緑ヶ丘町に北九州出張所を開設する。

昭和51年（1976年）2月

資本金を104,000,000円に増資する。

昭和51年（1976年）12月

長崎市目覚町に橋本有料駐車場（地上5階、収容能力150台）をオープン。

昭和52年（1976年）11月

橋本和太八代表取締役勲四等瑞宝章を授与される。

昭和51年（1976年）12月

有限会社うらかみ（パチンコ遊戯場経営）を設立。第一次オイルショックによる造船不況時の社員雇用確保を図る温情経営の結果、石油ショックに伴う経営危機を克服した。

昭和52年（1977年）11月

この後業容の多角化を図り、関連会社として、橋本産業（タイヤショップ店、本屋）、橋本総業株式会社（損害保険代理業）、株式会社中央技研（産業機械エンジニアリング）、橋本物産株式会社（テナント管理、駐車場運営）、株式会社ながさき船場（店舗内装業）を設立し、運営を行った。

昭和55年（1980年）4月

時津第7工区（11,334㎡）に事務所・倉庫・工場を新設して、鋼材部・原料部・鉄工部を統合し、鉄鋼事業部として発足させる。

昭和59年（1984年）9月

創業110周年を記念して本社ビル（地上8階）及び別館（地上5階）を竣工。翌60年、隣接地に本社ビルより直通出来る大型有料駐車場（地上8階収容能力250台）を開設。旧本社ビル跡地に橋本商会第2ビル（地上5階）を竣工。

昭和61年（1986年）4月

橋本寛が第5代目社長に橋本和太八が会長に就任する。

昭和62年（1987年）3月

長年主力事業であった鋼材部門を廃止、鉄鋼製品、スクラップ販売より撤退。

平成2年（1990年）2月

福岡営業所を開設。（福岡市山王）その後平成5年7月福岡支店に昇格

平成2年（1990年）10月

時津製造部に自動化機器・省力化機器の組立能力拡充の為工場建屋を増設する。

平成9年（1997年）10月

創業125周年。記念品を取引関係先へ贈呈する。

平成10年（1998年）11月

4代目社長橋本和太八逝去「故橋本和太八会長お別れの会」を営む。（ロイヤルチェスターホテル）

平成14年（2002年）12月

福岡支店と山王営業所を統合。中央区長浜に移転し、福岡支店とする。

平成17年（2005年）6月

資本金を150,623,000円に増資する。

平成18年（2006年）4月

橋本博文が6代目社長に、橋本寛が会長に就任する。

平成19年（2007年）11月

ISO14001（環境マネジメントシステム）を認証取得する。

平成24年（2012年）4月

新規事業の企画立案部門として、企画推進部を新設。

平成26年（2014年）4月

東京都品川区南大井に東京事務所を開設。

令和4年（2022年）11月

創業150周年を迎える。
